



LDAP ディレクトリの設定

ディレクトリの設定は、次の3つの関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が [Cisco Unified CallManager の管理] の [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

LDAP ディレクトリの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP ディレクトリの検索 \(P.13-2\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-3\)](#)
- [関連項目 \(P.13-8\)](#)
- [LDAP ディレクトリの削除 \(P.13-7\)](#)

詳細については、[P.13-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP ディレクトリの検索

LDAP ディレクトリの設定を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、LDAP ディレクトリの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、LDAP ディレクトリの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ] の順に選択します。

[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、LDAP ディレクトリを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: LDAP ディレクトリ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [LDAP 設定名]
- [LDAP マネージャ識別名]
- [LDAP ユーザ検索ベース]

2番目の [検索対象: LDAP ディレクトリ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている LDAP ディレクトリをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された LDAP ディレクトリのリストが、次の項目別に表示されます。

- [LDAP 設定名]
- [LDAP マネージャ識別名]
- [LDAP ユーザ検索ベース]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する LDAP ディレクトリ名をクリックします。

選択した LDAP ディレクトリがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.13-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定

Cisco Unified CallManager の管理ページ データベースとのユーザ データ同期化に使用する LDAP ディレクトリの情報を追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ] の順に選択します。

[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- LDAP ディレクトリに関する新しい情報を追加するには、対象となるディレクトリを見つけて (P.13-2 の「[LDAP ディレクトリの検索](#)」を参照)、**[新規追加]** ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- LDAP ディレクトリに関する既存の情報を更新するには、対象となるディレクトリを見つけて (P.13-2 の「[LDAP ディレクトリの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 13-1 を参照)。

ステップ 4 **[保存]** をクリックします。

新しい LDAP ディレクトリが Cisco Unified CallManager データベースに追加されます。または、既存のディレクトリが更新されます。

追加情報

P.13-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定値

表 13-1 では、LDAP ディレクトリの設定値について説明します。関連する手順については、P.13-8 の「関連項目」を参照してください。

表 13-1 LDAP ディレクトリの設定値




フィールド	説明
[LDAP ディレクトリ情報 (LDAP Directory Information)]	
[LDAP 設定名]	LDAP ディレクトリの固有の名前を入力します (40 文字まで)。
[LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)]	LDAP Manager のユーザ ID を入力します (128 文字まで)。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。
[LDAP パスワード (LDAP Password)]	LDAP Manager のパスワードを入力します (128 文字まで)。
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数のみ)]	[LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	すべての LDAP ユーザが存在するロケーションを入力します (256 文字まで)。このロケーションは、コンテナまたはディレクトリです。この情報は、お客様側の構成によって異なります。
[LDAP ディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)]	
[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)]	この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified CallManager データベースのデータと 1 回のみ同期する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[再同期の実行間隔 (Perform a Re-sync Every)]	<p>この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified CallManager データベースのデータと定期的に同期する場合は、これらのフィールドを使用します。</p> <p>左側のフィールドには、数値を入力します。ドロップダウンリストボックスでは、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [時] • [日] • [週] • [月] <p> (注) このフィールドがアクティブになるのは、[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)] チェックボックスをオフにした場合のみです。</p>
[次の再同期時刻 (Next Re-sync Time) (YYYY-MM-DD hh:mm)]	Cisco Unified CallManager ディレクトリのデータをこの LDAP ディレクトリと次回に同期する時刻を指定します。時刻は 24 時間制で指定してください。たとえば、午後 1 時は 13:00 です。

表 13-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明
[同期対象のユーザフィールド (User Fields To Be Synchronized)]	
[Unified CallManager ユーザフィールド (Unified CallManager User Fields)]	[LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)]
[ユーザ ID (User ID)]	[sAMAccountName] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[ミドルネーム (Middle name)]	(ドロップダウン リストボックス) これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 [LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)] については、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [middleName] • [initials]
[マネージャ ID (Manager ID)]	[manager] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[電話番号 (Phone Number)]	(ドロップダウン リストボックス) これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 [LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)] については、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [telephoneNumber] • [ipPhone]
[名 (First Name)]	[givenName] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[姓 (Last Name)]	[sn] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[部署名 (Department)]	[department] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[メール ID (Mail ID)]	(ドロップダウン リストボックス) これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 [LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)] については、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [mail] • [sAMAccountName]

表 13-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]	
[サーバのホスト名あるいは IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)]	この LDAP ディレクトリのデータが配置されているサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
[LDAP ポート (LDAP Port)]	<p>企業ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは、389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは、636 です。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
[SSL を使用 (Use SSL)]	<p>セキュリティのために Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
[他の冗長 LDAP サーバを追加]	行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。

LDAP ディレクトリの削除

Cisco Unified CallManager の管理ページで LDAP ディレクトリを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

LDAP ディレクトリを削除すると、Cisco Unified CallManager はそのディレクトリに関する情報をデータベースから削除します。



(注)

該当する LDAP ディレクトリの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウから複数の LDAP ディレクトリを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての LDAP ディレクトリを削除できます。

手順

ステップ 1 P.13-2 の「LDAP ディレクトリの検索」の手順を使用して、削除する LDAP ディレクトリを検索します。

ステップ 2 削除する LDAP ディレクトリの名前をクリックします。

選択した LDAP ディレクトリが表示されます。

ステップ 3 [削除] をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ウィンドウの表示が更新され、LDAP ディレクトリがデータベースから削除されます。

追加情報

P.13-8 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- [LDAP ディレクトリの検索 \(P.13-2\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-3\)](#)
- [LDAP ディレクトリの削除 \(P.13-7\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンド ユーザの設定 \(P.87-1\)](#)